

豊岡町複合施設

をかんがえる

地域のみなさまと初めての意見交換会(ワークショップ)を開催しました。当日の様子などをお伝えします。



当日の様子について

今回のワークショップでは、鶴見区にお住まいの方、又は在勤・在学の方の計30名が参加され、活発な意見交換が行われました。

3つから4つのグループになり、豊岡地区周辺の公共施設の現状と今後について課題だと感じていること、複合施設での魅力的な過ごし方、使い方などについて議論が行われました。

最後には全体で議論した内容を共有し、ワークショップを終えました。

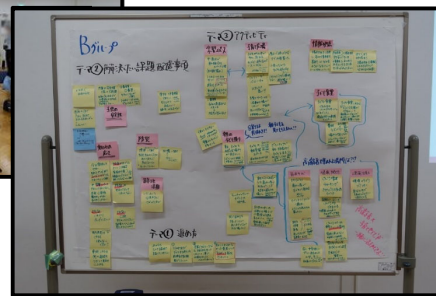


写真 ワークショップの様子

1回目

2回目

開催日	令和5年5月21日	令和5年5月27日
会場	鶴見中央コミュニティハウス	鶴見公会堂
対象者	子育て世代 12名	幅広い世代 18名
グループ	3グループ(各4名)	4グループ(各4~5名)

当日の流れ

開会のご挨拶
事務局からの説明
グループ討議(前半)
休憩(10分間)

各グループワークのテーマ

- ①こどもの豊かな学びを得られる場所とは？(1回目)
- おとなの豊かな学びを得られる場所とは？(2回目)
- ②居心地の良さを感じる場所とは？
- ③住み続けたいなるまちとは？(1回目)
- 地域や人とのつながりが生まれる場所とは？(2回目)

グループ討議(後半)
発表・講評
事務局からの
お知らせ・閉会

- ①プロジェクトの進め方について
- ②解決したい課題、配慮すべき事項
- ③アクティビティ (どんなことができると良いのか)

開催日時：5月21日(水) 14:00~16:45
5月27日(土) 10:45~13:45
会場：鶴見中央コミュニティハウス / 鶴見公会堂

ご意見

まちづくりについて

◆こどもの豊かな学びを得られる場所とは？

- ・眺めるだけではなく、休んだり、子どもを自由に遊ばせられる芝生などの緑がある場所は魅力的だ。
- ・未就学児には親も一緒に行き、目の届く範囲で自由に遊べる場所、小学3年生以上には大人が目があって子ども達だけで行っても安心な場所があると良い。子どもを自宅で遊ばせておくことができない共働き世帯にとって、子どもだけで安全に過ごせる場所があるのはありがたい。
- ・中高校生まで利用できる場所がないので、そういう場所があるとよい。
- ・子どもが安全に遊べるかというのは、居心地の良い空間の条件として重要な点の1つである。子ども達だけで行く施設には、親に入退出通知が来るシステムがあると安心だ。
- ・子ども食堂では、食事を提供するだけでなくボランティアさんが子どもたちに色々教えてくれるのがよい。

◆おとなの豊かな学びを得られる場所とは？

- ・市民の知を底上げしたり生涯学習のための知の拠点となるおとなの豊かな学びを得られる場所はないので必要だと思う。

◆居心地の良さを感じる場所とは？

- ・鶴見は学校、家庭、地域が支え合うコミュニティが形成されているので、その特色を活かしていきたい。人とのつながりがあることが居心地のよい場所には必要だ。
- ・商業的な施設だけでなく、目的がなくてもゆっくり過ごせる場所がほしい。
- ・駅前や街中には緑や自然公園がない。緑や川など自然を感じられる場所は居心地が良いと感じる。

◆住み続けたくなるまちとは？

- ・在宅ワークが進み、住むまちへの関心が高まっている中で鶴見が選ばれるためには、先端医療の充実、魅力ある教育環境、大人も子どもも遊べるリゾート性が重要だと思う。
- ・駅周辺の環境が充実していることや大人が利用しやすくなる施設があることがまちの魅力につながる。
- ・年齢の異なる子ども達の遊び場や気軽に健康チェックができる場所がある施設があるとよい。
- ・鶴見川のごみ拾いなどの環境活動や高齢者などの地域住民とのつながりを通じて、住み続けたいまちを自分たちでつくっていけるとよい。多世代交流は子どもの成長の機会にもなる。
- ・鶴見には外国人や地方からの居住者が多い。異なる文化を持つ人や障がいのある人など、多様性を受け入れて、理解し合う共生社会を目指したい。そこから鶴見らしさが生まれ、子ども達の視野も広がるとよい。
- ・鶴見には外国人が多く、豊岡小学校児童も外国人が1割はいる。日本人も外国人も子どもから大人まで多文化に触れることができ、一緒に学び経験することで互いの価値観を知り、違いを認めながらも自然と交流が生まれるようにしていきたい。日常的な交流があれば災害時にも役立つだろう。
- ・鶴見駅東側エリアのように、西側エリアもアート作品などのモニュメントなど芸術に触れることができる環境をつくっていきたい。新たな施設は、鶴見、豊岡地域の文化・芸術の発信拠点になればよい。
- ・防災や治安の面で、安全に住めるまちであることが大事だ。

既存施設の課題

■豊岡小学校

- ・豊岡小学校の校庭は狭いため、体育の授業などが重なる場合は、佃野公園を利用して不便である。
- ・コロナによって以前より子ども達が外で遊ばなくなったが、家でゲームをするのではなくもっと外遊びをさせたい。校庭は外で遊ぶための有効なスペースだと思うので、広いグラウンドを確保できると良い。
- ・小学校は、教育支援などの体制が弱く、不登校の親子が孤立しやすい環境となっている。
- ・学校の授業などで地域の人たちの力を借りたいが、個人情報や防犯面の観点から人材はいても実現が難しい。戦争体験話や浴衣の着付教室を地域団体が子どもたちに教えてあげるなど、まち全体で子どもたちを育てられる仕組みがあるとよい。

■鶴見保育園

- ・園庭は運動会をするには狭く、小学校のグラウンドなどを予約できないと運動会が開催できない状況だ。
- ・保育園には読み聞かせのカリキュラムがない。

■鶴見図書館

- ・鶴見図書館は座れる場所が少ない。座る場所を充実させて、ゆっくり滞在できる様になるとよい。
- ・鶴見区は人口に対しての蔵書の割合が低い。本を借りたり調べものができる図書館の存在を知らない小学生もいる。また、高齢者は図書館まで行くのが大変な人がいるため、地区センターや駅の出張所などで貸出や返却ができたり、レファレンスサービスがあるとよい。
- ・図書館はハード整備だけでなく、運営のコストもかかる。図書館に使う予算が少ないため充実してほしい。

既存施設の課題(つづき)

■つるみ区民活動センター

- ・現在の区民活動センターはあまり利用されていないので、複合化する必要はないと思う。
- ・特技を地域に活かし貢献したいと考えている人材は多くいると思う。生涯学習ボランティアの鶴見人ネットなど登録制度は整っているものの、どこに働きかけてよいのかわかりにくく、うまく活用できていない。
- ・現在の区民活動センターは入りづらいので、気軽に入れる様に敷居を低くすることが重要だ。

■放課後キッズクラブ

- ・放課後キッズクラブは、外国籍の子ども向けのクラスはない。外国人の子どもの放課後の居場所づくりが課題である。保護者が日本語を学べる機会も必要である。
- ・豊岡小学校付近に児童館があるが、子どもを預かる程度の機能で勉強や学び、運動や遊びはあまりできない印象である。地域に子育て支援の機能が少ない。

■その他公共施設

- ・似たような施設でもいろいろな名称がついており、誰を対象にした施設なのかわかりづらい。
- ・トイレがきれいな施設は人が集まる。父子では利用できないトイレもあるので、だれでもトイレが複数あるとよい。
- ・踏切を渡らないと公園に行けないので、子どもだけでも安心して遊びに行かせられる公園が近隣にあるとよい。
- ・地区センターはオセロやトランプなどを無料で貸し出しており、雨天でも卓球やバドミントンなどで利用できる。無料だったり少額で利用できる場所は子どもの遊び場として魅力的だ。
- ・ハーモニーとよおかの時間貸しスペースは、利用料がかかるので少人数で使う際には負担が大きい。
- ・学生が放課後に過ごせる場所が少ない。お金を払わずとも過ごせるような場所が必要である。

複合施設のあり方

◆期待すること

■モデルとなる施設

- ・プロジェクトを成功させて、図書館などの公共施設のモデルとして他地区へ広げ、横浜市全体を住みたいまちにできるとよい。今までにない、斬新で、他に真似されるものができることとよい。
- ・駅近くという利便性の高い立地を生かし、豊岡町ならではの施設になるとよい。学びの場、憩いの場を提供することでたくさんの方が訪れることに期待したい。

■複合化による効果

- ・図書館と学校図書室が一体化されると、小学生の学びにもつながるので魅力的だ。
- ・保育園と学童が隣接し、連携できるようになれば、保育園時代に慣れた先生に見てもらえるので安心だ。
- ・複合化されることで放課後にもにぎわいがある施設になるとよい。
- ・図書館、区民活動センター、スポーツ機能などを複合化し、様々なイベントや取組みを通して、利用する機会を増やすことで、複合施設を訪れるきっかけとなればよい。
- ・多国籍、多世代、障害者、産後の母親などの交流の場を設け、孤立などの問題を未然に防げるとよい。1つの施設で対応する方が効率的で効果的だと思う。
- ・大人も子どもも利用でき、どの世代も学びたい人が学べる複合施設になるとよい。
- ・低学年でも歩いて通えるため、小学校の近くに図書館があるのはよい。親子の待合せができる場所にもなる。
- ・教育の充実につながるとよい。

■機能の充実

- ・放課後キッズクラブを利用する子どもが多いためスペースが不足している。複合化によって広くなるとよい。
- ・区民活動センターを民間委託にすることで、夜間や休日などもオープンするなど使い勝手が良くなるとよい。

■交流の促進

- ・外国籍の親子の居場所が少ないので、外国の文化も取り入れ、グローバルな要素のある施設となればよい。多文化共生、多文化交流が促進することに期待したい。
- ・あらゆる世代が共通の関心事を通して共有の空間を過ごすことで、いつの間にか交流できる施設になるとよい。
- ・小学生が取組みや活動を発表したり、子どもたちが大人の活動を見たり、交流したりできる仕組みがあるとよい。
- ・各施設の取組みや活動が外からでも見えやすく、連携している複合施設でありたい。子どもがそれらの取組のなかから興味のあることを体験することで、様々な文化や世代の人に触れ、交流ができるようにしたい。
- ・各世代、立場に関係なく、誰もが施設を利用し、滞在できるようになるとよい。世代間交流が教育や地域コミュニティの醸成につながる。

■子育て世代への配慮

- ・共働き世帯が多い地域なので、共働きを前提とした計画にしてほしい。
- ・子育ては住んでいる場所で便利さが大きく変わるので、鶴見が魅力あるまちになるとよいと思う。

複合施設のあり方(つづき)

◆期待すること(つづき)

■環境配慮

・施設をZEB化するなど、高いレベルでの環境配慮を行うようにしてほしい。

■安全・安心

・鶴見区には子どもが安全に遊べる場所が少ないため、親が図書館など別の場所に行っている間に複合施設内で安心して過ごせるようになるとよい。地域の様々な世代の人が集まり、使用することが、防犯にもつながる。また、中高生の居場所もつくり、多くの大人の目が行き届くことで健全な育成につなげたい。

・行き慣れた小学校に色々な施設が入ることで、子どもがほかの機能をもつ複合施設にも一人で行きやすくなる。同じ施設内なので安全性も高まり安心感がある。

■商店街との連携、活性化

・様々な機能が複合化して多世代が訪れるようになれば、周辺の商店街に立ち寄る人たちも増え、商店街の活性化につながるのではないかと。

・複合施設をお祭りや地域の活動の場としたり、商店街のイベントなどを共同開催することで、子どもたちが地域や商店街に関心を持ち、施設を知るきっかけになるとよい。施設での活動がまちと連携することで商店街の活性化にもなり、施設の利用促進にもつなげたい。

■防災機能

・災害想定、地域状況などを勘案し、収容人数などの与条件を整理した上で、豊岡地区の防災拠点として整備できるとよい。隣接する福祉避難所との相乗効果も期待できる。

・周辺地域は戸建てを中心として高齢者が多いので、何かあった際に集まれる場所が必要だ。

・西口は東口に比べて滞留できるスペースが少ないので、帰宅困難者が緊急時に活用できる場になるとよい。

・津波の被害が心配なので、高さのある建物ができるとうよい。耐震性もしっかり確保した建物にしてほしい。

・災害時は、防災拠点としても使えると良い。防災備蓄やかまどベンチなどの設備は整備しておきたい。

■空間づくり

・椅子やテーブルなどを配置し滞在しやすくしたり、利用者に自然に行動を促すよう、動線などを工夫して利用をしやすくしていきたい。

・特に目的がなくても滞在しやすい、幅広い層に対応できている施設になってほしい。

・誰もが行きやすくなるよう敷居を低くする工夫をして、居場所のない高齢者などが集まれる場となるとよい。

・小学校は関係者でないと入れないことが多いため、地域の人が併設している施設へ入りにくくならないか心配である。

・車いす利用者や障がいがある子どもも過ごしやすいたバリアフリーの施設にしたい。

・将来的な人口の増減などの社会状況の変化に対応できるように、広さや使用目的を変えられるフレキシビリティのある空間づくりや機能配置ができるとよい。

・将来、少子高齢化により小学校の教室が余ってしまうかもしれない。時代に応じて、スペースを使い分けしていける設えにしたい。

■地域人材の活用

・民間施設と複合化するのならば、地域の人たちの雇用の場をつくるなど地域資産を活用できるようにしたい。

・高齢者は、潜在的な力を持っている人がたくさんいるので、生涯学習や地域活動の活動場所が一体的になることで、高齢者の活躍の場が広がるとよい。

・様々な施設のプラットフォーム的な場とすることで、地域人材の共有がうまくできるようになるとよい。

■まちの課題解決

・西口の利便性の向上など、駅との関係にも配慮して整備してほしい。西口には駐輪場が不足しているので、駐輪場を確保することが考えられる。

■その他

・図書館の書籍などを通じて過去の人たちの知と繋がるなど、学びの場になるとよい。

・子ども達の家から外に出ていくきっかけとなる施設になると良い。

◆懸念すること

■安全・安心

- ・建設も運営も子どもの安全を第一に考えて進めてほしい。大人目線ではなく子どもファーストで考えてほしい。
- ・不特定多数の人が出入りする施設と複合されると、小学校と保育園のセキュリティが不安だ。安全の確保とオープンな環境づくりとのバランスが難しい。
- ・防犯上、小学校と図書館の出入口は明確に分けて、地域も小学校も安心して利用できるようにしたい。
- ・セキュリティレベルを設定し、誰もが自由に入れるゾーンと入れないゾーンを明確に分けられるとよい。
- ・出入りにIDが必要な場所を設ける、出入口を別にする、壁で区切るなどのセキュリティ対策をしてほしい。
- ・顔認証、ICカード、自動入出時通知システムなどの最先端技術を活用して、セキュリティを徹底してほしい。
- ・複合化することで車利用者が多くなり、児童たちへの安全面が心配である。交通安全対策をしっかりとしてほしい。
- ・複合施設に外国人が多く集まることになったら、ゴミの出し方などマナーでの地域トラブルが増えないか心配だ。

■図書館の役割

- ・学校図書室と図書館は目的や位置づけが異なるので、機能を統合することは避けたほうがよいと思う。
- ・図書館は不登校児童が学校に行けなくても学べる場所になっている。複合化されると、小学校が隣接する施設に行かなければならず、居場所を奪うことになる。
- ・区内の図書館は足りてないので、複合施設内に図書館を作ったとしても鶴見図書館は残してほしい。建物はまだ使えると思うので大事にしてほしい。
- ・図書館運営に民間事業者が入った場合、本の仕入れが人気がある本に偏らないか心配である。
- ・図書館運営に民間事業者が入ると、利益重視で図書館の質を担保できなくなることが心配だ。民間事業者が頻繁に変わり、スタッフの質も様々になってしまうのではないか。図書館には図書館司書などのその分野のプロフェッショナルを配置すべきである。

■利便性の確保

- ・高層化すれば面積が確保できるかもしれないが、高層化すると移動が大変になり、使われなくなると思う。
- ・複合化により高層化すると、縦移動が主となり精神的に良くない。全機能でなくてもよいので、小学校、図書館などを分棟にするなど配慮してほしい。

■教育環境の確保

- ・教育の場である小学校の機能の維持と子どもの利益を一番に考えて、複合化によって学びを妨げることがない様に配慮してほしい。
- ・保育園の昼寝の時間に児童の声が聞こえたり、小学校のテスト中に園児の泣き声が聞こえたりして、互いの環境が悪くならないか心配だ。
- ・図書館は静かな状態が求められるので小学校との複合化は馴染まないと思う。
- ・小学生と保育園児が同じ場所で遊ぶのは危険だ。屋上でもよいので、校庭とは別に園庭を確保できると良い。
- ・子どもたちの学習、成育環境を守るために、工事期間中は別の場所に仮設校舎を設けてほしい。
- ・小学校に十分な面積を割くべきだ。機能を詰め込みすぎている気がするので、公共施設で面積がいっぱいなら、民間施設は不要だと思う。
- ・図書館の移転によって学校の面積が削られてしまうのであれば、学校としての機能の充実を優先させてほしい。
- ・小学校のスペースは今より狭くしないでほしい。身体を動かす点で問題がないようにしてほしい。
- ・保育園の園庭と小学校のグラウンドとの面積の取り合いになって、狭くならないか心配だ。
- ・グラウンドが狭くなるのであれば、隣接する郵便局や道路まで一体的に整備して面積を確保できると良い。

■民間機能

- ・昔ながらのお店が残る商店街は風情があり鶴見らしいよい雰囲気である。複合施設ができることで鶴見らしさを壊すことがないようにしてほしい。
- ・民間機能が入ることで、地域の個人店や商店街が商売を続けられなくなるようなことにならぬように、慎重に業者選びをすることが大切である。一緒に発展できるような事業者であるべきである。
- ・財政面だけを考えてマンションや企業などを誘致することは、複合施設の教育環境にそぐわない。
- ・住居を全て否定したわけではない。特別養護老人ホームなど色々な型で市民が滞在できる施設とする可能性はあると思う。
- ・民間機能が入る計画ならば、どのような施設をどのように決めていくのかを示してほしい。
- ・運営などを指定管理者とする場合は、質の良い事業者・NPOを選定してほしい。

■交流の場

- ・同じ活動に関心ある人などが交流ができる場があると、気の合う人と出会えたり情報交換ができてよい。
- ・外国人の母親などが孤立しない様に日本人も含めた多国籍の人が交流できる場がほしい。
- ・子育て世代が利用する施設が集約されるのなら、ここで親子サークルが開催できるとよい。無料や少額で利用できるとありがたい。
- ・豊岡小学校は、外国籍の児童が多いことから国際教室があるが、近年は定員オーバーで参加できないこともある。小学校と図書館が行き来しやすくなったり、コミュニティスペースが整備されることで、高齢者が外国人の児童に日本語やまちの歴史、勉強を教えるなどができるようになり、交流が生まれるとよい。
- ・保育園などで伝承遊びを教えているが時期が限られているので、年間を通して触れられる場所があるとよい。高齢者が子ども達に教えることで交流にもつながる。
- ・図書館単体では利用する人が限られてしまう。あらゆる世代に図書館を利用してもらいたいので、カフェや子どもたちを遊ばせる空間、食-遊び-本が密接に関わるような施設になると新たな交流が生まれると思う。様々な機能を隣接することで、図書館の敷居を低くし、行きたくなる工夫ができるとよい。

■休憩・憩いのスペース

- ・開放的なテラスや屋上、休憩スペースなどで、テイクアウトしたものを食べたり、川やアートを見ながらリラックスした時間を過ごせるとよい。
- ・リラックスして滞在できるようにカフェがほしい。高級志向ではなく、気軽に、普段着で使える、料金的にも高すぎない店がよい。
- ・憩える場やゆっくりと過ごせる場として、カフェがあると良い。図書館利用者や他の施設利用者が利用できるだけでなく、カフェだけでも利用しにくくすることで収益を生んでいけるとよい。
- ・図書館に魅力的なカフェがあると敷居が低くなり、図書館の利用を促すことにつながるのではないかな。
- ・図書館のほか、生涯学習センター、子ども広場、芸術文化ホール、カフェなどの様々な機能があることで、子どもからお年寄りまでの多世代が安心して1日過ごせるようになるとうい。
- ・子育て世代にとっては、子どもが遊んでいるのを見守りながらカフェ利用ができたり、カフェで買ったものをテイクアウトして子どもの遊び場にもっていけるとよい。カフェが独立してあっても使い勝手が悪いので、子どもの遊び場と一体的に利用できるようにしてほしい。

■学びの場・活動の場

- ・大人が学び直したいときに利用できる場所であってほしい。夜間学校など教育コンテンツが夜間にもあったり、外国人の家庭が多いので、親が日本語を学べるとよい。
- ・子どもだけでなく、大人も趣味の活動などが行える場所にして欲しい。料理教室ができたり、運動場があるとよい。
- ・高齢化が進んでいるため、高齢者の活躍の場がないと日本は発展しない。子どもたちに昔の遊びを教えたり、関心のある講座に参加できるような高齢者のための生涯学習の場は必要である。
- ・料理教室や食育、街の人がお試しでお弁当販売などができるシェアキッチンがあるとよい。学生や若者も関わったり、親同士のコミュニケーションの場になるとよい。

■子育て環境の充実

- ・親の出勤時間から登校時間まで子どもを預かってもらえる場所がほしい。高齢者が読み聞かせや伝承遊びを教えてくれたりできるとよい。
- ・子どもが熱を出しても仕事を休めない親もいるので、小学生も利用できる病児保育のような機能があるメディカルセンターが欲しい。
- ・児童書コーナー、子どもの遊び場、カフェ、コミュニティハウスなど、子育て世代が利用する施設は同じ場所にまとまっているとワンストップで利用できてよい。
- ・プレイルームやプレイリーダーのいる屋外プレイパークなど、子ども達が自由に遊び、昔遊びや屋外遊びを教えてもらえる場所があるとよい。
- ・近隣に公園が少ないので、子どもの遊び場や憩いの場として校庭を開放し、公園的に利用できるとよい。
- ・子どもの送迎ついでに手続きなどの用事が一つの施設で済ませられるよう、行政サービスコーナーがあるとよい。

■健康づくり

- ・地域住民が卓球、バドミントン、ダンスなどの軽い運動ができる場所が小学校の体育館とは別にあるとうい。
- ・健康は気になるがフィットネスジムに行くほどでもない時に、気軽に運動したり健康チェックできるとよい。
- ・地域の人たちや地域の子どもや若者たちの活動の発表の場としてホールのような機能があると良い。小学生や若者が地域の活動に触れる機会につながるし、地域の人たちも若者たちの部活動などの成果発表を観に来ることで多世代間がつながるきっかけにもなる。

■健康づくり(つづき)

- ・生涯学習や市民活動団体、様々な世代が利用できるよう、複数の貸しスペースや会議室があるとよい。
- ・区民活動センターは、市民がそこに行けばやりたいことが見つけられたり、市民活動グループなどとつながるような場所にしたい。活動グループの紹介などを行うことで、自分もやってみたいと思ったり、活動に参加するきっかけとなる拠点になるとよい。
- ・健康づくりを推進していきたい。学校のプールや体育館などを市民に一般開放し、団体でなく個人でも利用できるようにしてほしい。また、1回ごとに利用できるような気軽なスポーツ施設がほしい。
- ・スポーツやイベントのできる屋根のある施設が近隣にないので、週末や夜間などに小学校の体育館を地域開放できるとよい。
- ・小学校のプールを授業や水泳教室で利用していない時間帯は、リーズナブルな料金で地域に開放できるとよい。
- ・小学校のプールは通年利用できるように室内にしてはどうか。利用シーズンに限られるのに場所を取るのはいらない。室内プールにして冬季だけでも民間に貸し出しすれば、賃料が入るし維持管理もしやすくなる。

■学習支援、中高生の居場所

- ・塾に行けなかったり、自宅が狭くて勉強する場所を確保できない子どももいると思うので、学習支援ボランティアがいる学習スペースがあるとよい。教育格差を抑えることにもつながるのではないかな。
- ・中、高校生は無料で勉強ができる場が少ないので、私語禁止の勉強スペースがあるとよい。
- ・地域に中高生の居場所がないので、学習スペースのほか、卓球などの運動ができる場所があるとよい。

■学校図書室の充実

- ・学校図書室では、鶴見に関する資料をまとめたコーナーを充実させてほしい。
- ・学校図書室は、子どもが楽しみ、くつろげる空間になるとよい。子どもの目を引くデザインにして、堅苦しい家具ではなく、ソファやクッションなどを取り入れたい。

■教育環境の充実

- ・児童が保育園の先生や図書館司書になるなど、小学校と保育園、図書館が連携した職業体験ができるとうよい。
- ・地域の高齢者が小学校や図書館で読み聞かせを行うなど、コミュニティとのつながりがあることを活かした教育環境の充実をはかれるとうよい。
- ・校庭は、全校生徒がのびのびと走ることができ、授業に支障のない広さがほしい。
- ・学校のカリキュラムや設備を魅力的にしたり、多様性を考慮し、児童の特性に合わせた教育のオーダーメイド化ができるとうよい。
- ・コロナの時のように、どんな状況によっても子どもの学びが維持できるよう学校授業のデジタル化はより充実していきたい。IT環境を充実させることで、先生の労力の省力化が期待できる。

■相談窓口

- ・相談と紹介に特化した障害福祉のワンストップ窓口を設置し、継続的な支援ができるようにしてほしい。障害者が働けるようになれば社会にも貢献できる。

■図書館の魅力向上

- ・鶴見が住みたいまちになるための魅力づくりとして、本を借りやすくし、図書館の利便性を向上させたい。
- ・多文化や多様性を学べる書物を充実させ、異文化を知り、助け合いが生まれる機会を作る場として図書館を活用したい。
- ・図書館は、市民の知を底上げし、生涯学習などの知の拠点である。図書館司書などの専門性のある職員を配置し、外国の本やアカデミックの蔵書を充実させ、大学などと連携して検索システムを構築したり、新聞や論文、有料のデータベースも検索できるようになればよい。
- ・閲覧スペースや子どもの学習や大人の作業の場となる自習室の広さを充実してほしい。
- ・席の配置に配慮してほしい。窓側にカウンター席があると気分がよく、集中できる。
- ・図書館には、学習ができたり、音楽室、料理室、生涯学習支援、子育て支援(児童コーナー、遊び場)の機能を併設できると良い。
- ・子どもの遊び場と児童書コーナーを一緒にして、子どものスペースはまとめてほしい。また、今の子どもは読書よりも見て学ぶことが多いので、メディアルームがあるとよい。
- ・地域の商店街の参考になるよう、商店街活性化や経営、起業に関する本を集めた書籍コーナーがあるとよい。

複合施設で行われるアクティビティ(つづき)

■図書館の魅力向上(つづき)

- ・絵本コンシェルジュとして図書館スタッフが保育園をまわり、アウトリーチするなど、図書館の存在をまず知ってもらい、その後に施設の利用を促すようにしたい。
- ・社会情勢や自分の思考を深めるための講演会などの企画を実施するなど、生涯学習の機能を図書館にも取り入れたい。図書館司書と連携してプログラムを企画するなど大人の豊かな学びを得られる知の拠点となるとよい。
- ・図書館でも趣味の活動などが行える場所があるとよい。子どもと大人と一緒に学ぶことができるタブレット講習会やIT講習会をしたり、認知症の人が本を紹介する機会を提供するなど療養にも役立つ図書館になるとよい。
- ・インターネットで調べるだけでなく、中高生も図書館に来て、資料へのアクセスの仕方を学んでほしい。ビブリオバトルなどが行えたりすると良い。

■子ども食堂

- ・子ども食堂をやりたい、支援したい人はいるが場所がないと聞いた。利用希望者は多いが現在ある施設は狭いので、子ども食堂ができるとよい。
- ・ハマ弁食堂として、子どもだけでなく高齢者にも食事を提供したらよい。
- ・調理するのは大変なので、料理は商店街のお店から提供してもらい、食事するスペースだけを作ってはどうか。

■イベント開催

- ・グラウンドで地域の祭りなどを開催し、豊岡の魅力を発信することで地域を盛り上げたい。祭りやイベントの運営スタッフとして子ども達も関わるとよい。
- ・古着や子ども用品などのフリーマーケット、季節ごとのイベント、農作物のマルシェ、工作づくりなどが開催できる場所があるとよい。

■防災拠点

- ・災害時は、小学校だけでなく複合施設全体を指定避難所として、更衣室や個室などを設け、避難生活時の滞在環境を充実させたい。蓄電池や太陽光などのエネルギー設備を整備し、防災拠点としての機能の充実を図りたい。

■商店街・地域との連携

- ・近隣の商店街と連携し、一緒にマルシェやイベントなどをすることで商店街を知ってもらい、商店街活性化につなげたい。また、そうすることで、定期的に施設を利用するきっかけにもなるだろう。
- ・花火大会やお祭り、マルシェなど、広場やグラウンドなどで地域の様々なイベントができれば、子どもや学生たちが街の活動に関わって地域連携もできてよい。
- ・商店街と連携し、小学生を対象に職業体験などができると面白いのではないかと。
- ・オフィスでの仕事が主流ではなくなっている。地域で仕事ができるコワーキングスペースと、商店街などで起業できるような起業支援とセットで整っているとよい。
- ・子どもの集まる場所とは離して棲み分けし、大人もワークスペースとして利用したい。
- ・地元の企業や地元の商店など、地元のものを活用してほしい。

■情報提供

- ・WEBでは情報がバラバラで見づらいので、市内で行われるイベントや市の情報を集約し、世代や地域ごとに整理した掲示版を設置してほしい。
- ・様々な情報にアクセスできる窓口があるとよい。
- ・外国人や障害者に、生活情報、自立を支援する施設やプログラムの情報などが届いておらず、地域から分断されていると感じている。情報を取りに来てもらうのではなく発信者が積極的に伝えていく必要があると思う。

■その他

- ・鶴見には街を見渡す場所が少ないので、展望できるようにしてほしい。
- ・安全面に配慮した上で、車でアクセスできるように駐車場がほしい。
- ・駐輪場を確保してほしい。

プロジェクトの進め方について

■住民参加の場

- ・計画内容がもう少し具体的になった段階で、配置のあり方など区民も参加して話し合う機会があると良い。
- ・意見交換の場やワークショップをもっと開催すべきである。意見を吸い上げた上で、さらにテーマごとにアイデアを盛り込んで計画にまとめるとよいと思う。
- ・ワークショップに参加しなかった人やできなかった人の意見を集める機会があると良い。文書で意見を受け付けるなど、広く意見を集めてほしい。

- ・計画期間が10年程だとすれば、時間的余裕もあるはずなので、もっと色々な形で地域の意見を聞いてほしい。
- ・横浜市が市民の意見を聞いてそれをまとめるのではなく、自分たちの意見だと納得しながら進めていきたい。鶴見区の市民が主導する意見交換会の場として豊岡小学校の建て替えを考える市民会議を、市民主催で立ち上げる必要性を感じている。

プロジェクトの進め方について(つづき)

■住民参加の場(つづき)

- ・現在の図書館や将来できるであろう図書館について考える市民の会や、市民が意見を述べる事ができる図書館協議会を設立してほしい。
- ・小学生や図書館利用者など、それぞれの施設の利用者だけで集まり未来を語る場があるとよい。
- ・図書館、小学校、保育園など複合化する施設(テーマ)別に意見を聞く機会を設ける方法もあるのではないか。
- ・今回のようなワークショップに来るのはハードルが高く、強い意見を持っている一部の人がばかりが集まりやすい。イベントに合わせて気軽に意見を聞くような機会があると、地域の平均的な意見が集められるような気がする。

■意見を聞く対象

- ・小学校や子どものための施設が入るのだから、子どもの目線になって考えることが大切だ。アンケートやワークショップなどを通じて、子ども達の考えや興味があること知る必要があると思う。
- ・大人の視点ではわからないこともあるので、施設を使用する当事者である小中学生にも意見を聞くべきである。
- ・子どもの意見なども取り入れて、必要な施設について優先順位をつけて進めてほしい。
- ・小学校や保育園の先生、図書館職員などの現場の意見も聞いて進めていくと良い。
- ・小学校、図書館、保育園、区民活動センターの利用者ごとにワークショップを開催してほしい。
- ・市民の意見としてまとめるのに、子育て世代のみでワークショップを行うのは、市民を分断していると思う。子育て世代だけでなく高齢者の声もあるとよいと思う。

■前提条件

- ・そもそも複合化することが前提になっていることに疑問を感じる。複合する機能もなぜこの機能で決まったのか理由や説明が足りないので、納得はできていない。
- ・複合化ありきではなく、子ども達にとってベストとなるのは何かという視点で進めてほしい。
- ・複合化する際に、民間事業者が入ることについて聞いていなかった。理由をきちんと示してほしい。
- ・なぜ区民活動センターが複合化対象なのか知りたい。
- ・市民と行政との間に知識量の差がある。もう少し勉強をした上で検討したいので、複合化する理由やそのために必要な知識をきちんと提供してほしい。
- ・図書館の跡地は公共的な場所として活用できるとよい。複合施設に入りきらなかった案は、図書館の場所で実現できるとよいと思う。
- ・今の小学生はコロナの影響を受けた世代なので、今の子ども達が不利益を被ることがないようにしてほしい。

■情報発信

- ・今回のワークショップは参加者が少なかった。開催案内の情報発信の仕方をもっと工夫してほしい。学校、園を通じた発信は必要だ。
- ・今回のワークショップが周知がされておらず、知人から聞いて初めて知った人が多かった。もっと一般人にも知ってもらえるようにした方がよい。
- ・SNSを活用して、今回のワークショップの成果を公表するなど、計画に関する情報発信を充実させて、区民が作り上げたという当事者意識を育むことが重要だ。
- ・今後もこの計画の動向に興味があるので、進捗状況などについてきちんと知らせしてほしい。過程の公開が重要だ。ワークショップ参加者のSNSグループを作ることも考えられる。
- ・施設完成後には、ここでどんな活動やイベントができるかを広く伝えるための情報発信が必要だ。
- ・HPに特設コーナーをつくり、ワークショップの報告を市民の情報発信してほしい。進捗をわかりやすく伝えてほしい。

■意見反映

- ・ワークショップで出された意見がきちんと反映されるのかという懸念がある。盛り込めなかった意見については、できなかった理由を教えてください。
- ・行政側で難しいと判断したアイデアがあった場合は、別の策を住民が改めて考える機会があるとよい。
- ・ワークショップの意見は、どう計画に反映させていくのか示してほしい。意見に対するフィードバックが欲しい。
- ・複合化のデメリットをどう解消・対応するのか説明してほしい。

■計画期間

- ・計画策定に10年かかると、その間に現在の想定が変化している可能性もあるので、もっとスピード感をもって取り組む必要があると思う。
- ・今がどの段階なのかがわからないので、計画の進捗状況を知りたい。

■その他

- ・図書館は、近年、全国的に明るく、開放的な憩いの場としてイメージチェンジをしている。近年つくられた図書館を参考に複合化を検討できるとよい。先進的な図書館や図書館機能がある複合施設などの事例を共有してほしい。
- ・現在、放課後キッズクラブは定員オーバーで、施設面積が足りない状況である。小学校の建替え期間は、放課後どこで児童たちが過ごすのか心配である。
- ・公費のことも考え、施設は資源だと思うので、無駄にならないようにしてほしい。
- ・小学校の建替えではなく、鶴見区全体の問題という認識で検討を進めてほしい。

以上